

# 令和5年度(2023年度)農林水産常任委員会管内視察の概要

1 視察日 令和5年(2023年)10月11日(水)

2 視察者 農林水産常任委員会(7名)  
竹崎和虎(委員長)、中村亮彦(副委員長)、西 聖一、  
山口 裕、橋口海平、前田敬介、高井千歳

3 視察の概要

## (1) 大切畑ダム

大切畑ダムは、平成28年熊本地震により、ダム堤体や施設に甚大な被害を受けたため、県営の災害復旧事業として、現在、ダム本体工事及び取水設備工事を実施している。

今回の視察では、執行部から、熊本地震による被害概要、災害復旧工事のこれまでの取組・進捗状況及び施工上の課題等について説明を受け、施工現場の見学を行った。

執行部からは、ダム本体工事については、令和8年度の供用開始を目指して工事を進めていること、池敷きの掘削において固い岩盤が出現したことや堤体基礎部分に軟弱な基礎地盤が出現したことに加え、資材高騰に伴う工事費の増加によって工事請負契約の変更を行う必要があるとの説明があった。



## (2) みかん園地及びJA熊本市河内柑橘選果場

熊本市西区河内地区は温州みかんの栽培歴史が古く、全国有数の産地を形成し、年間を通してリレー出荷できる生産体制を整備している。

また、JA熊本市が当地区に令和3年に建設したAIやロボット等の最新技術を活用した高機能柑橘選果施設は、より精密な選果を可能とし、作業の効率化、自動化に寄与している。

今回の視察では、白浜地区のみかん園地において、みかんの着果状況と併せて園地整備状況等について、また、JA熊本市の柑橘選果場では、産地の概要説明に加え、最新鋭の選果設備について、DVDや設備を見学しながらみかんの保管、選果、箱詰め及び出荷までの一連の工程について説明を受けた。



J A 熊本市柑橘部会の生産者からは、部会で年間2万トンの生産量を維持することを目標としているが、部会員の高齢化が進み耕作放棄地が増加している、後継者がいない農家も多く樹園地の集積を進めていく必要があるが、規模拡大に伴う大規模貯蔵庫の建設など経費の増大が懸念されるとの説明があった。

選果場では、J A 熊本市河内支店の担当者から、開設3シーズン目を迎え、シーズンを通して選果から出荷までトラブルなく稼働しており、市場、量販店及び他の主要産地（和歌山、愛媛、長崎など）からの視察が絶えない状況にある、また、物流分野における労働力不足等対策のため令和3年産の輸送から導入している「パレット輸送」は、積込み時間の短縮や軽労働化などの効果が生まれているとの説明があった。



### (3) 塩屋漁港（しゅんせつ土砂受入地）

塩屋漁港は、熊本市の西北端に位置し、西側に面する有明海の広大な干潟域を利用したノリ養殖が盛んに行われ、水産物生産拠点として重要な役割を担っている。有明海沿岸に位置する当漁港は、土砂が堆積しやすく、泊地や航路のしゅんせつが必要なため、それを受け入れる埋立地を整備し、継続的にしゅんせつを行っている。

今回の視察では、塩屋漁港埋立地の現状や今後の有明海のしゅんせつ土砂の受入れ計画等について説明を受けた。

執行部からは、塩屋漁港の埋立地は平成26年度から土砂を受け入れてきたが、令和11年度に満杯となる見込みであるため、港湾事業で新たに長洲港周辺に土砂の受入れ地を整備する予定であること、また、長洲港の受入れ地の整備が完了するまでの期間は、宇土市の住吉漁港に別途受入れ地を整備して対応していくとの説明があった。

